

里芋の植え付け

NPK= 9-18-16、追肥 NK=9-9 を一回。畝幅 110 cm 株間 35 cm

1. 110 cm の畝幅を取り、1 番畝の中心 55 cm を計り、次の畝の中心は 110 cm ごとに計ってゆくようにすると測量作業がはかどる。畝の中心線にダンポールを打ち、植え付け予定の畝数の畝の中心を全て測量する。4 月中旬までには植え付けが完了するように準備しておく。
2. 3 人一組で、2 人が手前と奥に立ち中心線を結ぶように線引きをする。1 人が支えに使う杖に長い棒（鋤を逆さに使ってもよい）を持って、畝の中心線の上に足跡をつけて歩く。次ぎ、次と畝の中心線に足跡をつけてゆく。
3. 足跡をつけた上を鋤の幅くらいで 15 cm ほどの深さに直線に溝を掘ってゆく。
NP 化成 16 号(15-20-0)を1m あたり 100g、堆肥 1 畝 1 袋（およそ 15kg）を 1 畝にすじまきにする。K を少なくするのはカリ過剰対策。耕耘時点に元肥が撒かれていない場合は 硫Mg、BM重焼燐、畑のカルシウムをそれぞれ 1m あたり 100g(合計 300g) となるような混合元肥を舟などで必要畝分用意して同時に施肥する。
4. 施肥後、肥料と土とを棒を使って溝の中を軽く引きまわして混ぜるように歩く。
5. 5cm ほど合い土を溝全体にかぶせ、種イモを 35 cm くらいの間隔で、芽の向きを同じ向きに揃えて並べてゆく。
6. 種イモの上に覆土軽く寄せて小山をつくる程度に畝を仕上げ、畝の中心部分の土を鋤などで軽く押さえておく。種イモは 5 cm くらいの深さで、覆土をあまり深くしてはいけない。
7. 畝の中心線をイメージしながら、荒らしてしまった畝間を鋤などで軽く整地をしておく。
8. 水撒きは必要ないが、乾いていれば、軽く土と種イモをなじませるくらい撒いてもよい。乾きすぎないように後日、適時に、撒きすぎないように水撒きを考える、土揚げを行う。

